



え と 文
黒田明比古

都会のパターン

久しぶりに上京してみると、東京の街は騒然、雑然として行人の足並があわただしく、その上新しい流行のパターンが、随所にはんらんしていて、生活の流れ、その激しさが身に迫るように感じられた。しかし、帰りの列車に間にあうようにと、早朝、ビルの中腹をぬう高速道路を友人が超スピードで車を飛ばしてくれた時のころよい緊張は、大都会での生活感情かもしれない。現代感覚とはこういうものである。

帰ってみると、京都はこぢんまりと纏って、木々も家並も静かにいきづいている。平調な佻しさを時には感じるが、何もかも混沌として明日に不安と焦燥感を抱くわれわれの世代にとつては、ひとり深く沈思することを妨げられないこの環境を、むしろ有難く思うのである。

(文学部二回生・二科会所属)